

## 住民ガイド養成の一例



### 住民ガイド養成とは

近年、エコツーリズムやグリーンツーリズムの発展にともない、町おこしや村おこしにおいて、そこに暮らす住民の方々が自らガイドさんとなり、各地で活躍されています。また、都市部においても、歴史や地域の再発見をテーマにした住民ガイドさんによる「まちあるきプログラム」などにお目にかかることも多くなっています。

リードクライムでは、自然体験や環境教育のインタープリターのノウハウを活かして、このような住民ガイドさんの養成を行っております。

「伝える力の向上」「リピーターがふえるプログラム開発」「注目をあつめる小道具づくり」「地域の素材発掘」「安全管理・危機管理」などご希望やご要望にあわせた内容の研修デザインが可能です。

### 研修の一例：

#### ～まちあるきガイド養成講座の実施例～

##### ◆メッセージ（趣旨）

住民ガイドさんは、料理人に例えることができます。地域にはたくさんの魅力的な素材があります。住民ガイドさんは、地域にあるたくさんの素材を調理して、旅行者（参加者）に美味しい料理を出しておもてなしをいたします。そのために必要な技術は、大きく2つあると考えます。ひとつは、どの素材を、どのように調理して、どのように盛りつけてお出しするかということ。すなわち、素材選びと、それをどのように伝えるか・見せるかということ。二つ目は、相手に「おいしい」と言ってもらえるようなメニューと味付けが必要とすること。すなわち、相手が何を求めているか、何に喜んでくれるかを察知する対象者理解が必要です。

リードクライムでは、数々の現場経験で得た「どんな本にも載っていないガイドのコツとテクニック」をわかりやすく伝授いたします。

住民ガイドさんと一緒に地域の魅力を発信し、元気で楽しい地域を作っていきましょう。

##### ◆対象とする方：

まちあるきガイド、観光ボランティアガイド、グリーンツーリズムガイド、エコツアーガイドなど

##### ◆研修構成の例：

ここでは、講義+実践練習の2回構成を例として挙げます。

1回目：基本の講義：1時間半

2回目：実践練習：3時間

【基本の講義／内容例】

□ねらい：人前で話すときの基本となる知識を学ぶ。

□講義内容例

- ・あなたが理想とするガイド像は？
- ・ガイドの技術
  - (1) 肝に銘じておきたい3つ ～話の内容以前に大切なこと～
  - (2) 伝え方のポイント
  - (3) 話す準備をする（シナリオを作る）
- ・シナリオ作りのポイント
- ・プロのガイドが大切にしていること

【実践練習／内容例】

□ねらい：人前で話すときの基本となる知識を学ぶ

実習を通して話の組み立て方、話し方を学ぶ。

実習を通して上達のための練習方法を学ぶ。

□実践練習スケジュール例

09：00 オリエンテーション

→この研修の目的を共有する時間です。

09：15 コミュニケーション実習

→お互いを知ること、心と体のウォーミングアップの効果を体験します。

09：45 「相手を知る」実習

→ガイドにおいて大切な「対象者理解」について  
実践を通して学びます。

10：45 休憩

11：00 「伝える」実習（例：自分を伝える）

→自分を紹介するためのシナリオの組み立てを考え、  
3～4人一組でガイド役と参加者になり実演をくりかえします。

11：45 まとめの小講義／上達するための練習方法

12：00 終了

上記プログラムは一例です。

ご要望やロケーション、対象者に合わせたさまざまなプログラムデザインが可能です。

また、ここでは数時間単位の研修例を挙げましたが、

1日全日、1泊2日、2泊3日などの長時間型の研修デザインも、もちろん可能です。

お気軽にご相談ください。

